

学校概要

創立 59 周年	学校長 梅澤 薫	副校長 山崎 悦宏	学期 3 学期制	児童・生徒数 586 人
学級数 一般級: 15 個別支援級: 3			主な関係校: 西寺尾小、西寺尾第二小、子安小、港北小、寺尾小	

学校教育目標

『自立貢献』～夢をもち努力をおしまず感動を共有できる生徒～

- (具体目標) 将来に夢を抱き、自ら学び続ける生徒を育てます。(知)  
 挨拶・礼儀や社会のルールを重んじ、場に応じた行動がとれる生徒を育てます。(徳)  
 自分や他の命を大切に、健康な心と体をつくる生徒を育てます。(体)  
 地域を愛し、自らができることを実践する生徒を育てます。(公)  
 積極的に挨拶をし、また多くの人とのコミュニケーションを大切にしながら、視野を広げようとする生徒を育てます。(開)

学校の特徴

- 学区は、大口駅東口側の神之木西寺尾地区を中心に北部の松見地区、西部の新子安地区、入江地区からなり、学校の教育活動にとっても協力的である。
- 小中ブロックの西寺尾小学校、西寺尾第二小学校からの入学が中心で、連携が充実している。
- 基本的な生活習慣やしつけについては、地域、家庭によって相当の差異がある。また、家庭学習の定着が難しい家庭が多い。
- 比較的経験の浅い職員が多いが、経験豊富な職員を中心に、時間をおしまず生徒に寄り添う活気のある職員集団である。
- 部活動が活発で意欲的に生活する生徒が多いので、地域行事にも主体的に参加できる生徒の活動を開発したい。
- 地域や教師は、生徒が積極的に挨拶する姿を見られることを望んでいる。

学校経営中期取組目標

- 教職員一人ひとりが本校学校教育目標の具現化を目指し、生徒とのふれあいを大切にし、教職員がお互いに豊かにコミュニケーションを図り、「チーム」として機能する活力ある学校づくりを目指します。
- 「わかる授業」「楽しい授業」の展開を通して、学ぶ意欲の向上と基礎基本の定着を目指します。
- 人権を尊重し、互いの良さを認め、「相手の立場になって考える」「相手へのいたわりや、優しさの心を持つ」生徒を育みます。
- 相談活動を充実させ、心身が健康な生徒の育成と安全な学校生活を目指します。
- 学校評価を生かし、保護者や地域と協働し、「まち」と共に歩む学校づくりを目指します。

小中一貫教育の取組

錦台中学校	ブロック	: 西寺尾小、西寺尾第二小
9年間で育てる子ども像	○「あいさつは あふれる笑顔の あいことば」というスローガンのもと、学校・家庭・地域で協働して錦台中学校区に生活する子どもたちの健全育成を促進するとともに、基礎学力を高めて意欲的に学習する子を育てる。	
自校の具体的取組	○ブロック内での情報交換を基に児童生徒の実態把握 ○把握した情報から、「生徒に身に付けさせたい力」、「重点的な取組み事項」等に関する共通理解の推進 ○合同研修会、授業研究会等の開催 ○6年生児童の授業見学、部活動体験等	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	わかる授業・楽しい授業の展開と生徒の学ぶ意欲の向上を目指す。	①授業公開する機会を維持し、効果的な研究授業、検討会を行う。 ②年度当初に少人数授業、TTを行う教科については、授業の進め方、少人数授業・TTの持ち方を十分に検討し計画的に行う。 ③学期末に実施している生徒による授業評価を、集計結果をもとにしながら授業改善を行う。 ④小中一貫で行っていることを各教科の授業に活かす。
豊かな心	様々な経験を通じて、他を思いやる心を育み、自分で深く考え行動する態度を養う。	①道徳の授業の工夫改善、また平和学習を通して、さらに人権意識を高められるようにする。 ②いじめをテーマにした道徳授業の展開を全職員で考え検討し実践していきたい。 ③今年度に引き続き、生徒会を中心としてあいさつ券を利用した挨拶運動を展開していく。 ④平和学習や道徳授業の充実を図り、友人関係、家族関係、地域の中での自分にできることを常に考えさせていきたい。
健やかな体	生徒が健康で安全な生活を心がけるとともに、自己の体力の状況等を理解し、より効果的な運動習慣の確立や生活習慣・食習慣の改善を通して、自らが積極的に体力向上に取り組むよう指導する。	①落ち着いて学習できる環境を整えるため、教室や校内の環境美化に努める。②学校保健委員会をさらに充実させ、委員会の生徒だけでなく、全校生徒も一緒に学習できる機会を作る。③新体力テストの結果をもとに、単元ごとの課題設定を行う。また、体育科の授業や部活動を通して持久力、体力の向上を図る。④授業等を通し「食育」「性に関する教育」「薬物乱用防止教育」を推進し、健やかな成長を支援する。
教育課程学習指導	あらゆる教育活動を通して、自己有用感・自己肯定感を醸成して、集団への帰属意識を向上させるとともに、上級生が下級生の手本となるよう事前指導を徹底する。	①「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図り、生徒が学習に対する興味・関心を高め、あきらめず粘り強く学ぶ姿勢を身に付けるような指導を図る。 ②宿泊行事や体育祭・文化祭、特別活動・総合・道徳・部活動等を通し、知徳体公開のバランスのとれた生徒の育成を目指した指導を図る。
児童・生徒指導	あいさつ運動を通し、生徒同士でコミュニケーションをしっかりとることができるようにするとともに生徒の活動について全職員で共通理解のもと、健全な育成に努める。	①引き続き、個々の生徒の心情等をくみ、個に応じた温かみのある生徒指導に努める。 ②引き続き、日常から生徒との時間の共有に努め、教職員と生徒との人間関係の構築に努める。 ③誰もが、3年間続けられる指導を心がけ、報告・連絡・相談を徹底し、組織的な指導を行う。 ④いじめ防止委員会を定期的に開催し、いじめや不登校の早期発見・早期対応を図り、全職員で情報を共有し、指導・支援を行う。
地域連携	学校説明会や懇談会、学家地連総会等で学校の経営方針を説明し、教育活動への理解を深め、必要な協力が得られるようにする。	①地区別生徒集いを土曜授業の後に行い、地域の方との顔合わせを続けて行っていく。 ②「地域清掃」や小中共同で行う地域での「震災募金活動」、お祭りボランティア、地域防災訓練の参加を通して、地域の方と交流し、「まちの一員」としての意識をさらに育てていく。 ③HPや学校だよりをさらに活用し、地域に開かれた学校にしていく。 ④学校評価アンケートを行い、家庭や地域の声を学校運営に生かしていく。
いじめへの対応	いじめの未然防止・早期解決にむけ、定期的な教育相談等を通じ、生徒や集団の変容を確実に把握する。生徒ひとり一人寄り添った支援を長期にわたって継続する。	①全校で道徳教育を推進し、人権に対する意識を高める。 ②毎週いじめ防止委員会を開催し、気になる生徒の動向に注意を払う。 ③いじめがあった場合にはいじめ対策委員会により指導と支援について検討し、指導・支援後もいじめは繰り返す可能性が高いことを念頭に置き、指導・支援の流れを継続する。
人材育成・組織運営	教職員一人ひとりが、『教師力の向上』に努めるとともに、「チーム錦台」としてのチーム力向上に貢献する。	①他の研修との兼ね合いを考慮しつつ、中堅職員をリーダーとしながら計画的に研修を行い、経験の浅い職員の育成を図る。 ②外部指導者、主幹教諭を講師として招き、校内研修を意図的・計画的に実施しながら教師力の向上を目指す。 ③全教職員が教育公務員としての使命感と情熱を持ち、自らの指導力を高める。